

ネイティブ牛キモトリプシノーゲンA

Cat. No. NATE-0134

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明 キモトリプシノーゲンは、プロテオリティック酵素であり、消化酵素キモトリプシンの前体（ジモゲン）です。これは、245のアミノ酸残基からなる単一のポリペプチド鎖です。膵臓の腺房細胞で合成され、腺房細胞の頂部にある膜で包まれた顆粒内に保存されます。その後、細胞はホルモン信号または神経インパルスによって刺激され、顆粒の内容物が十二指腸に通じる管に流れ出します。

別名 キモトリプシノーゲンA; キモトリプシノーゲン; キモトリプシン

製品情報

種	牛
由来	牛膵臓
形態	凍結乾燥粉末
CAS登録番号	9035-75-0
純度	精製された、五回結晶化された、電気泳動的に均一な
活性	1 mgのタンパク質あたり少なくとも45ユニットを活性化します
特異性	芳香族アミノ酸に関与する結合に加えて、キモトリプシンはロイシル、メチオニル、アスパラギニル、グルタミル残基の結合の加水分解を高い速度で触媒します。最近、BerezinとMartinek（1970）およびBaumannら（1970）による研究が行われました。
阻害剤	酵素は重金属、さまざまな程度の天然トリプシン阻害剤（Birk 1961）、ジャガイモ由来の阻害剤（Ryan and Balls 1962）、および有機リン化合物によって阻害されます。キモトリプシンのゲル濾過は、自己分解生成物やその他の汚染物質を除去します（Yapel et al. 1966）。α-クロロケトンα-キモトリプシン阻害剤としての特異性は、KumarとHein（1970）によって研究されました。Erlanger et al.（1970）は、フェノチアジン-N-カルボニルクロリドがキモトリプシン阻害に特異的であると報告しています。
代謝経路	マトリックスメタロプロテイナーゼの活性化、特定の生物系; 欠陥のあるAMNは遺伝性巨赤芽球形貧血1を引き起こす、特定の生物系; 欠陥のあるCUBNは遺伝性巨赤芽球形貧血1を引き起こす、特定の生物系
単位定義	1ユニットは、25°C、pH 7.8の条件下でカルシウムの存在下において、1分間に1マイクロモルのベンゾイル-L-チロシンエチルエステルを加水分解します。上記の定義を使用した場合、45ユニット/mgの活性は、ATEEを基質として使用した場合、10 kDaの光学密度1330 N.F. ユニット/mgに相当します。

保管・発送情報

保存方法 2-8°Cで保管してください

安定性 酵素はpH 3.0の溶液中で数日間安定しており、冷却保存された乾燥粉末としては数年間安定しています。